「東アジア文化都市 2015 新潟市」クロージングシンポジウム

日時　2015 年 11 月 23 日（月・祝）
会場　朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 国際会議室

パネリスト ：篠田　昭　氏（新潟市長）
恵　新安　氏（中国共産党青島市委員会宣伝部長）
尹　在吉　氏（清州市副市長）
モデレーター：太下義之　氏（三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング株式会社芸術・文化政策センター主席研究員／センター長）

太下：
　ご紹介いただきました太下です。文化政策の研究をしております。
　東アジア文化都市、今年１年かけて実施された盛大な文化事業も、新潟市においては今日がクロージングとなります。そこでこの１年を振り返って、現時点で総括をする。そういうシンポジウムをこれから開催したいと思います。合わせて東アジア文化都市が１年間

かけてやってきたことが、単に一過性のもので終わってしまうものではなく、これからどういう交流をしていったらよいのか、そういう議論も合わせて出来たらと思います。１時間という限られた時間ですが、中身の濃い議論が出来ればと思っておりますので、パネリストのみなさん、どうぞよろしくお願いいたします。
　進め方は最初に３都市の代表の方に今年１年間を振り返った成果についてご紹介いただくプレゼンテーションをしていただき、その後、今後の交流等について議論をさせていただければと思います。プレゼンテーションの順番は並んでいる順で、新潟の篠田市長、青島の恵部長、清州の尹副市長　この順番で進めていきたいと思います。
　それではトップバッターになりますが地元新潟市の篠田市長の方から、今年１年の成果のプレゼンテーションをお願いいたします。

篠田：
　それでは私の方から今年１年の取り組み成果発表をご報告させていただきます。
　新潟市は 2015 年東アジア文化都市に選定いただきましたが、6、7 年ほどクリエイティブシティ創造都市になろうということで、市民・地域の皆さんとともに文化創造都市づくり

に努めてきました。そのような取り組みが評価され、文化庁長官表彰などもいただき、自信を持って進められるようになったと思っております。そういう面で横浜市に次ぐ、国内で２番目の開催都市になったということ。改めて皆様に感謝したいと思います。

このような形で新潟はネットワーク型の魅力を発信し、また、交流のプラットフォームを作っていく。そして新潟が誇る「水と土の暮らし文化」これを伸ばしていく。その土台は何と言っても市民力･地域力これをさらに発揮いただくことだ。というふうに思っています。

新潟の大きな柱。２本の柱。１つは「水と土の暮らし文化」大変に素晴らしい暮らし文化があるということ。もう１つは、世界に誇る「食文化」米・酒・新鮮な日本海の幸･里の幸これらを食文化として更に創造していこうということであります。

まず、オープニングの取り組み。これが本当にいい形でスタートを切ることが出来ました。青島市・清州市からも素晴らしい芸能団からおいでいただき、さらに地元新潟からは、Negicco、ヒルクライム、あるいは新潟総おどり、音魂、すべて新潟生まれ新潟で今活躍しているこれらの方たちからご登場いただきました。

また、これは東アジア文化都市そのものではありませんが、中国総領事館のご尽力によって、『新潟春節祭』を新潟で初めて開催していただきました。ハルビンからは交響楽団においでいただきました。これに合わせて新井満さんのお作りになった『千の風音楽祭』も開催いたしました。「ユネスコ創造都市ネットワーク」に加盟している中国の成都市、韓国の全州市からも参加いただき、『食文化創造都市にいがたシンポジウム』もおこないました。

これは数ある事業の中でもメイン事業に位置付けさせていただいた、『水と土の芸術祭』の一コマです。今回アート作品は 4 つの“潟”をメインフィールドとして展示をおこないました。また、アート作品については、ベースキャンプを日本海を望む大変すばらしい立地の旧二葉中学校の跡地に設置し、アートプロジェクト・アート作品も一緒にご覧いただきました。100 を超す大変多彩なまたレベルの高い市民プロジェクトを、新潟市全域で展開し、まさに市民力・地域力・文化創造の力が非常に強いということも実感することが出来ました。また、もう一つの新潟の売りである“食”“おもてなし”このプロジェクトにおいても今回かなり力を入れて、いい形で展開できたと思っております。まだ正式な集計ではありませんが、『水と土の芸術祭』の開催期間中、おかげさまで７０数万人が芸術祭を楽しんでいただけたということで非常に盛り上がりました。

新潟のゴールデンウィークに欠かせないイベントとなった『ラ・フォル・ジュルネ』(熱狂の日音楽祭)。これは、新潟の姉妹都市フランスのナント市が世界に広げる、最もエキサイティングなクラシックコンサートといわれているものを、今回も華々しく開催いたしました。また、日本の“和の文化”に触れやすいようにということで『アート・ミックス・ジャパン』という取り組みも新潟の若者たちが中心となって展開しています。非常に素晴らしい和のネットワークが出来たということで、『ラ・フォル・ジュルネ』のディレクター、

ルネ・マルタンさんからも注目をいただいている状況です。

新潟が誇る“Noism”。ノイズムを率いる金森穣さんの提案で「新潟インターナショナルダンスフェスティバル」が開催され、中国・韓国からもコンテンポラリーダンスのチームが共演しました。

そして、東アジアは“書”でも繋がっています。『書の美学 国際シンポジウム』も大変に高いレベルの研究者から欧米からも 参加いただき、おそらくこれまで日本でおこなわれたことのないレベルの書の国際シンポジウムが開催できました。

新潟の若きクリエイターが大変すばらしいレベルで、プロジェクションマッピングを製作している縁で、プロジェクションマッピングがどんどん広がっている状況です。今年はとうとう国際コンペティション『にいがた☆MINATOPIKA』というネーミングで、みなとぴあを舞台に世界のプロジェクションマッピングを楽しむことが出来ました。これも大変に盛り上がりました。

そして交流事業。特に青少年交流は本当に効果が大きかったと思っています。新潟の得意分野であるアニメ・マンガを体験していただくワークショップなど、言葉の壁を越えて大いに盛り上がったという状況でした。新潟のもう一つの大きな財産である農業。これも中国・韓国の子供たちが、一緒になって農業体験をするということで、これについては青島・清州でも同じように、それぞれの地域文化を味わう素晴らしい青少年交流が出来た。これはこれからも未来に繋げていきたいと思っております。

今回テーマソングというような形に結果的に位置付けられた「わたしは未来」という素晴らしい歌を、日本語・中国語・韓国語でそれぞれの合唱団が歌う。この「わたしは未来」という歌は、東京芸大の宮田 亮平（みやた りょうへい）学長が、日中韓の文化交流のテーマソングにしようということで、作られた歌を最大限に活用させていただいたということであります。この合唱団の交流も非常に素晴らしい成果になったというふうに思っております。

青島市のオープニング、清州市の文化ウィークなどの様子です。それぞれの地域でこんなに素晴らしい伝統文化、芸能があるのかということを我々実感できました。また、新潟市の文化ウィークにも芸能団などに来ていただいて、素晴らしい書の文化、雑技団の演技、これを新潟市民が広く実感することが出来ました。特に、にいがた祭りの時に文化ウィークを設定いたしましたので、大変多くの方に体験いただいた。また、青島・清州のオープニング文化ウィークには新潟の誇る伝統文化をご披露させていただきました。

このような形でマンガ交流、メディア交流も日中韓のそれぞれの市民に広く知っていただくという面で効果が大きかったと考えております。このような交流事業を今後も発展させていきたいと思っています。

交流のプラットフォームを構築しようということで、『日仏都市文化対話』をおこなって来ました。今回、『日仏中韓都市文化対話』として東アジアの文化とフランスの文化がどのように融合しあうのか、触発しあうのか、非常に良い取り組みだったと思います。

『食文化創造都市にいがたシンポジウム』も大変に盛り上がりました。

数字の面で申しますと、25 の主要事業と 27 の 3 都市交流事業が展開され、フレンドシップ事業においては 150 近いという数になりました。来場者数についても 79 万人をすでに越

し、80 万人間違いなく突破する見込みです。実際に相互訪問で交流した人数も 400 名以上です。

広報の部分においても、多くのメディアの方にご協力いただき、日中韓の関係はこの 1 年で、大きく明るさが見えてきたということです。この明るさを牽引したのも東アジア文化都市事業が大きな力になったと思います。後程、Negicco と小林幸子さんが共演し「にいがた★JIMAN!」をご覧いただきますが、宣伝下手といわれた新潟も発信力を大きく伸ばすことができたと感謝しております。

これから東京五輪・パラリンピックに向けて、日本全土で文化プログラムが始まることになります。日本政府は 20 万件を超す文化プログラムを 4 年間で展開するという具体的数字も示しております。私たちはその文化プログラムの先頭に立とうと、東京だけが盛り上がるのではなく、地方都市が盛り上がり、東京に必要な時だけ行っていただくというような形のツアーを提案していこうと考えております。

ネットワークを繋ぐゲートウエイとして、昨年の横浜・泉州・光州に加え今回の新潟・青島・清州のネットワークが加わり、そこにまた日仏都市文化対話、ユネスコ創造都市、創造都市ネット日本、多様な国内国際の連携が形になってきました。このネットワークをより重層的に、きめ細かく積み上げて、平和・共生・交流のネットワークにしていきたいと思っております。

これからも新潟は今回の東アジア文化都市を大きな契機として、より文化創造の力をつけ、そして東アジアの平和・共生に貢献をする街になりたいと思っております。これまでのご協力本当にありがとうございました。

太下：

篠田市長ありがとうございました。

まだ速報値とのことでしたが、80 万人を超す勢いで参加者がいらっしゃること。そして、メイン事業の『水と土の芸術祭』の中で、100 を超す市民プロジェクトがあったということに感銘を受けました。こういう市民プロジェクトはおそらく、今年の東アジア文化都市が終わった後も、何らかのレガシー・継承されるものとして残っていくのではないかと感じました。

それでは、続きまして青島市からお越しいただきました恵部長から青島市の今年の取り組みの成果のプレゼンテーションをお願いしたいと思います。

青島市・恵部長：

では、これから青島市における東アジア文化都市イベントイヤーの成果をご紹介いたします。1 年間、私たちは新潟市・清州市と協力し、支えあい、有効的に 3 都市間の交流・協力を進め、3 か国国民間の相互理解と友情を大いに深め、大きな成果を上げました。そして東アジア文化都市の目標をよく達成できたと存じます。

それでは、項目毎に説明いたします。まずは目標とテーマです。2015 年東アジア文化都市・中国青島イベントイヤーのテーマは「東アジア意識、文化の融合、相互鑑賞、共生、

革新、調和」です。我々の目標は「日中韓 3 か国の文化実務的協力を積極的に推進し、東アジア伝統文化の保護と伝承を促進することで、3 か国の人々に多彩な異国の文化･芸術を体験してもらい、相互理解と都市間の文化交流を深める」ということです。

私どもは枠組み内の 1 年間イベントを計画するに当たって 3 つの重要な原則を作りました。①国際交流を重視すること。新潟、清州とのやりとりを強め、東アジア文化都市の文化外交･公共外交の意義を充分に表す。②特色のある革新を重視すること。中華文化と斉魯文化の特色をはっきりと示し、青島独特の文化魅力を発信する。③持続的発展を重視すること。都市間の文化交流・協力長期的メカニズムを構築することで、事業の成果を固めて存続させる。

主な内容の一つは日中韓文化協力枠組み内のプロジェクトです。私どもは青島イベントイヤー開幕式を開催しました。日韓の友人の方々に全面的に中国と青島の文化を理解していただくために、私どもは開幕式期間中に中国一流の文化プログラムを準備し、中華文化と青島の特色を完璧に融合したステージイベントを皆様に楽しんでいただきました。東アジア文化都市発展シンポジウムも行いました。6 つの東アジア文化都市の代表は「如何に東アジア文化都市を絆に都市間の文化交流をよくできるか」を巡って深く交流し意見を交わしました。第七回日中韓文化大臣会合も共催する予定です。この会合は青島で 12 月 19 日から 21 日まで開催される予定で、会合期間中に 3 か国代表は 2016 年日中韓 3 か国文化交流協力プログラムについて話し合い、2016 年日中韓東アジア文化都市の当選都市を発表する予定です。会合期間中に「2015 日中韓芸術の夜」大型ステージイベントが予定され、日韓の芸術家らと共同で東アジア文化芸術の饗宴を催します。また、日中韓芸術教育フォーラムとイベントイヤー閉幕式も予定されています。教育フォーラムでは、日中韓 3 か国の専門家を招聘し、無形文化遺産の保護、教育と普及などのテーマについて交流して意見を交わす予定です。青島イベントイヤー閉幕式とステージイベントも同時開催します。私どもは皆様のお越しを心よりお待ちしております。

青島が開催した特色ある事業は以下の通りです。私どもは「青島文化ウィーク」を成功に実施しました。「青島文化ウィーク」は青島が自分の文化を紹介する重要な事業です。期間中に、青島で「3 か国水彩画作品交流展」、「都市の写真展」、「青島文化ウィーク開幕式・ステージイベント」も行われました。また、清州と新潟において青島の味わいを持つ雑技、クルミ彫刻、切り絵等伝統芸術も PR されました。これらのイベントの中で、3 都市の文化が引き立て合うことで、各都市の美しい風景と深い文化の奥底を表し尽くし、東アジア文化都市の都市魅力を PR しました。また、青島市民「五王」芸事大会もスタートしました。この大会は中国初の同じプラットフォームにおける「歌王」、「舞王」、「劇王」、「琴王」、「ショー王」5 つの分野の市民芸事コンテストです。第 1 回の応募者は 4 万人余りで、応募演目は 4,300 余りに達しており、市民に広く歓迎されて愛されています。今年の第 2 回大会では新潟と清州の達人を決勝戦に招いて青島の達人と競合させ、3 都市市民文化交流の新たな

高潮を引きこそうとしています。このほか「不朽の都市彫像」シリーズイベントも開催しました。都市公共芸術が都市文化イメージの表現方法だと国際社会で普遍的に認められています。私たちは「不朽の都市彫像」シリーズイベントで欧州文化首都との砕氷の旅をスタートしました。このイベントでは、私どもは15名の国際一流の芸術家を青島都市公共芸術クリエイト活動に招聘しました。市民らはウェブ上や一般の方法で芸術家らの作品を判定し、青島に不朽な都市文化記憶とモニュメントを残すことができます。

青島は他にも一連の文化交流イベントを開催しました。美術交流分野では、「2015東アジア文化都市青島国際水彩芸術祭」が行われ、日中韓3か国の60名の芸術家が参加し、120余りの水彩画作品が展示されました。このイベントがある程度現在日中韓3か国の水彩画クリエイト水準を表していると言えるでしょう。音楽交流分野では、「青島に集まれ～日中韓アジア楽団民族音楽会～」が開催されました。3か国の芸術家らは自分の民族楽器で他国の民族楽器との共演という形でいろいろな民族の名曲を演奏しました。また、60名余りの日中韓等の国から来た専門家・学者らが参加した「アジア・オセアニア音楽学会」国際シンポジウムが行われました。無形文化遺産保護分野では、「共同の記憶～無形文化遺産特別公演～」が開催され、500名余りの青島と清州の芸術家と役者が素晴らしい演技でたくさんの無形文化遺産の元素を舞台に表現し、中韓の文化交流をよりよく強めました。マンガ・アニメ交流分野では、「日中韓大学生マンガ・アニメクリエイト大会」が行われ、青島も新潟市で開催された第6回にいがたアニメ・マンガフェスティバルに招待されました。メディア交流分野では、青島メディア代表団は新潟で開催された「メディア交流in新潟」に招待されました。青少年交流分野では、「日中韓青少年文化使者交流 in 青島」が行われ、日韓の青少年を青島に招き、ヨット都市としての青島の魅力、茶道、中国古筝、中国画、蟷螂拳等の文化遺産を体験していただきました。また、青島市も新潟市で開催された「わたしは未来」日中韓3か国青少年合唱交流活動に招待されました。青島で開催された市民文化イベントは青島市各区・市及び各文化機構が積極的に東アジア文化都市イベントイヤーに取り組んで10月中旬までに行った200余りの公演、養成講座、展覧会、展示会等です。

これから私どもが得た主な成果についてお話します。まずは都市文化宣伝モデルの転換が実現できたことです。青島市は東アジア文化都市に選定されたという好機運を契機に都市イメージ宣伝のより高いプラットフォームを見つけました。青島市は北京首都国際空港の国際線ルートを利用して3ヶ月間にわたって青島イメージ展示を行い、都市の文化戦略、歴史伝承及び商業ブランド文化等の分野において全面的なPRをし、数百万もの利用客に美しい青島を見せました。また、私どもは第1回「創客（メイカーズ）王者～中国国際文化創客（メイカーズ）大会～」を開催しました。この大会の目的は世界中の優秀な創客（メイカーズ）プロジェクトと一流の人材資源が青島に集まるようにすることです。「2015青島市民『五王』大会」も行われ、日韓の達人を招き、3か国交流共栄のプラットフォームを構築しようとしています。このような文化宣伝は文化事業ブランドをプラットフォームとし、各分野の資源を集めることで、青島文化宣伝モデルの転換を実現することができました。

第2に都市文化外交力の突破が実現できたことです。これまで、青島が11回に分けて200人余りの関係者を日韓に文化交流を目的とした派遣をし、さらに7回に分けて120人余

りの日韓の来訪者を受け入れたことで、3 か国間の文化交流をより一層深めました。

第 7 回日中韓文化大臣会合は青島で開催される予定で、この会合の開催により日中韓 3 か国文化交流における青島の地位が新たに格上げされます。そして、私どもは世界文化都市ネットワークの構築を計画しており、都市外交の新突破と都市文化づくりレベルの上昇の実現に繋げたいです。この 1 年、青島は東アジア文化都市を年間の文化事業の主要路線にし、枠組み内事業をよく実施したほか、都市公共文化サービスレベルアップ計画、文化遺産伝承保護プロジェクト、対外文化交流プラットフォームづくり等の事業も展開し、東アジア文化都市がもたらした人気と資源で全市の文化づくりをレベルアップしました。先程、私たちは新潟市の 1 年間の振り返りをききましたが、清州市もきっといい経験を分かち合ってくださると存じます。今回のシンポジウムは私たちの相互理解・交流の良いプラットフォームとなるでしょう。これからも私たちの努力によってより良い成果が出るように願っています。ありがとうございました！

太下：恵部長　ありがとうございました。

東アジア文化都市の開催を通じて都市のイメージアップ、都市文化外交のポテンシャルの向上、そして文化的プラットフォームの構築があったという成果のご報告をいただきました。

それでは、清州市の尹副市長から清州市での取り組み、成果のご報告をいただきたいと思います。

清州市・尹副市長：

東アジア文化都市清州市が今年 1 年間展開してまいりました主な事業と、その成果についてご報告させていただきます。

清州市では「生命の大合唱」のテーマで開幕週を含む様々な行事、清州民族芸術祭・清州芸術祭などそれと連携したイベントを展開いたしました。すべてのイベントには清州の生命、文化の価値を盛り込みました。また様々な関係団体の協力を得て、非常に充実した事業として発展させることが出来ました。

まず、公式イベントについてです。3 月 9 日に青島市・新潟市とともに開幕式をおこないました。この日は日中韓 3 か国の東アジア文化都市フォーラムをはじめとするキム・ジョンドク韓国文化体育観光部長官の招待でのイベント、また清州をテーマとしたストーリーテリング式の公演をおこない、感動深い時間となりました。開幕イベントには新潟市長もご一緒していただきました。また、様々なパフォーマンスもおこなわれ、非常に感銘深い時間となりました。その後、1 か月間、文化ウィークとして様々なイベントを開催いたしました。この期間中は、新潟・青島・清州の文化が一堂に会して体験できる時間となりました。様々な広報イベントもおこなわれ

ました。清州・新潟・青島とも国際空港が近いところにあるということから、「空港フォーラム」を開催いたしました。「文化の多様性の日」というイベントも、ともに展開いたしました。

清州市がメインとしている「箸フェスティバル」は全世界が注目するイベントとして成長しています。11 月 10 日からは日中韓 3 か国の箸文化が 1 か所で楽しめるイベントが開催されました。また 3 か国の専門家が集まり、箸文化の産業、過去・未来について話し合うシンポジウムも開催されました。特に 11 月 11 日は箸の日と名付け、様々なイベント・パフォーマンスを同時に開催いたしました。これを通じて 3 か国の共通コンテンツである箸を中心に、より交流を深めることが出来ました。この内容は NHK やアルジャジーラ放送などを通じ全世界に放送され注目が高まりました。日中韓が力を合わせ、この箸文化をユネスコに登録しようということで意見が一致しました。これと関連した様々なイベントについてです。清州では様々なイベントが年中開催されています。4 月には清州芸術祭が開催され、期間中、日中韓の文化交流がおこなわれ、文化の魅力を紹介することができました。この期間中は桜も満開で、儒教の文化も共に楽しむことが出来ました。

また清州はハングルを作った世宗（セジョン）大王が長い期間滞在し、眼病を治したり、ハングル創製の最終作業をした場所として有名です。これと関連付けて毎年、世宗大王と椒井薬水（チョジョンヤクス）祭りを開催しています。今年は文字と文化を中心とした東アジア学術シンポジウムを開催いたしました。ハングル・漢字・かなという文字を通して文化的な共通性と相違点を知ることができる時間となりました。

清州民族芸術祭の期間中も 3 か国が文化交流をおこないました。特にこの期間中は、清州・青島・新潟 3 都市だけでなく、ベトナム・モンゴルからの公演チームとともにパフォーマンスをおこない、大きな注目を集めました。3 か国は事前に公演の練習をし、汗を流し、文化交流の価値を共に感じることが出来ました。写真のように日本からは三味線の佐藤兄弟の公演が行われました。

秋には「清原（チョンウォン）生命祭り」を開催いたしました。特に今年は東アジア文化都市として選ばれたということで“ソロリ種籾”生命文化都市というイベントを開催いたしました。清州のソロリから出土した種籾は、1 万 7 千年前のものということで、歴史を塗り替えるような大きな出来事として、世界また国内からも大きな注目を浴びました。

次に、東アジア文化都市の特別イベントです。「東アジア創造学校」を月に一回開催しています。日中韓の文化交流のリーダーである李御寧（イ・オリョン）先生をお迎えして、講演をおこない創造学校をスタートさせました。また、都市と食、都市とデザイン、都市と写真、市民と文化というテーマで様々な市民と専門家が交流して、その価値を知る時間を作りました。新潟・青島からも文化アーティストが参加した様々なプログラムも運営されました。

日中韓 3 か国の書を中心としたイベントも開催されました。“東アジア文字書芸大展”は日中韓女流書芸家 100 人余りが参加して 10 月 28 日に大展が開催されました。筆を中心としたパフォーマンス、講演、イベントなどのプログラムが展開され、参加者だけでなくマスコミからも大きな注目を集めました。

東アジア文化都市の価値を拡大するための様々な取り組みもおこなわれました。たとえ

ば韓国とベトナムの文化交流もその一つの例です。両国の公演団体が相互訪問をしたり、交流をおこないました。今年はベトナムのフェ市で清州の芸能団が公演をし、逆にベトナムのアーティストを清州にお迎えして公演をおこないました。文化パートナー事業もその中の一つです。ベトナム・モンゴルなど途上国の芸術家を招待し、韓国の文化を広げ、またベトナムの文化を知る時間としました。様々な文化の違いを感じ、芸術の世界を深める取り組みとなりました。また清州では市民の文化に対する共感、文化ネットワークを広げるための事業をおこないました。様々な関係団体との協力を通してネットワークを作り、世界的バイオリニストのチャン・ユジンさんを招待してのコンサートもおこないました。またメディアとの連携ということで特集番組も作りました。

東アジア文化都市清州の価値を広げるために、このような取り組みもおこないました。青島招待の文化公演行事、アジア芸術祭など多彩な交流プログラムを展開してまいりました。これらを通して、清州市は“生命文化都市”としての価値を発信することが出来ました。また各界の芸術家や市民が積極的に参加をして、祭りの場を作ることが出来ました。 世界へそして未来へ進むための基盤を作ることが出来ました。

清州市は持続可能な政策事業を作りました。箸フェスティバルを毎年開催する予定です。また、箸の日、箸教育、箸文化商品、箸講演コンテンツを継続して開発し、特化していく予定です。日中韓 3 か国が共にユネスコ文化遺産に登録するための取り組みも積極的におこなっていく予定です。創造学校というプログラムも持続的に展開してまいります。今年 1 年間の取り組みに基づいて、来年からは市民・文化・芸術家など様々な人々の参加を得て、未来志向の夢を実現してゆく開かれた学校形式で運営してまいります。

ほかにも生命文化都市清州の魅力を発信して生命教育のための環境づくりのために、“三歳村”というものを展開していきます。また、消えつつある韓国の伝統文化を一か所で楽しむことができる、“東アジア文化市場”というものも展開してまいります。このような伝統文化の価値を文化産業・観光産業として特化するために“ホログラム教育センター”“デザイン創造ベルト”といったものを共に展開してまいります。

今年 1 年、皆様のご協力を得て、このような取り組みをおこなうことが出来ました。東アジア文化都市に選ばれ幸せな 1 年となりました。このような取り組みがここで終わることなく、これからもっと大きな展開、多くの人々の参加を得て、発展していきたいと考えております。皆様、本当にありがとうございました。

太下：

尹（ゆん）副市長ありがとうございました。

今のプレゼンテーションの中の箸フェスティバルは非常に興味深いイベントだと思いました。中国も韓国も日本も皆、箸を使う文化ですが、その素材・使い方が微妙に違っています。同様に今のプレゼンテーションの中に儒教の会議があるというお話でしたが、この儒教も中国をオリジンとして韓国・日本に伝わっています。そして更に、漢字と書というイベントもあるというお話でしたが、漢字という文化も日中韓 3 か国の文化の基盤となっています。現在はそれぞれ違う形で漢字も使われている。多様性がみられる。東アジア 3 か国の共通性をお互いに確認しつつ、現在の文化の多様性というものをお互い尊重してい

こうという、非常に興味深い取り組みが行われていたことを確認させていただきました。

さて、３都市の今年１年間の成果をご紹介いただいたわけですが、ここからは、将来に向けての議論をさせていただきたいと思います。

最初にお三方にお聞きしたいのは、今年１年間の成果を踏まえて今後どのような交流をおこなっていこうと考えていらっしゃるのか、こういう未来志向のお話を伺いたいと思います。それでは篠田市長からお願いいたします。

篠田市長：

今、青島・清州の成果発表を聞かせていただいて、本当に素晴らしい活動を３都市で展開することが出来たとあらためて確認させていただきました。我々としても、派遣した芸能団・文化団が現地の方々と仲間になり、顔なじみになっていることがありがたいわけです。こういう交流や相互派遣の規模は若干小さくなるかもしれませんが、お互いがそれぞれの訪問を支援するという形で継続していきたいと思っています。

また未来への投資といった面では、青少年交流、若者交流が最大の財産になると感じています。これまでも新潟市、民間の方が、例えばロシアの姉妹都市ハバロフスク、ウラジオストク、そして中国ハルビン市、韓国のウルサン市の子供たちを夏休みに１週間から 10 日間、キャンプやホームステイもやる交流をしてくれていました。そういうものを今後、青島市・清州市の子供達とも交流をしていく。若者交流も分野を決めて行っていく。このような青少年若者交流を最大の柱としたいと思いながら今の報告を聞かせていただきました。ぜひ来年以降も継続していきたいと思っています。

太下：

篠田市長ありがとうございました。

青少年交流というお話がありましたが、ご案内の通り日本は世界でも最も進んだ少子高齢の国になっています。それだからこそ、未来を担う人材である青少年に文化的な交流を経験していくことは非常に大事なことだと思います。また、東アジア文化交流を通じ文化関係者の皆さんがお互いに仲間になるというお話もありました。これは非常に大事なことだと思います。冒頭、恵部長のごあいさつで、「東アジア文化都市の３か国の幸福度を上げる」というお話がありましたが、まさに、その一つの象徴になることだと思います。

それでは、今後の交流について青島市の恵部長からお話をいただきたいと思います。

青島市・恵 部長：

ありがとうございます。先ほど私たちは新潟市と清州市の経験を共有することが出来ました。大変多くの共通点がありました。この東アジア文化都市が既に非常に素晴らしい交流・協力のプラットフォームとなっていると存じます。私どもの主な考え方は今後このプラットフォームを更に打ち固め、継承・発展させていくことです。詳しく述べると以下の 6 つの考えがあります。

まず第 1 は積極的に「アジア芸術祭」を誘致することです。アジア芸術祭は中国が主催する国家レベルの地域国際芸術祭で、アジア諸国の異なる芸術文化に更に多くの交流の場を提供することで、中国とアジア諸国との文化交流を促進しようとしているイベントです。青島は積極的に誘致し、東アジア文化都市の成果でアジア芸術祭の誘致に努力します。もし誘致が成功すれば、私どもは東アジア文化都市の当選都市を共同参加に招聘するつもりです。これが私どもの一つ目の計画です。

2 つ目の計画は私どもが引き続き文化団体の交流を推進することです。青島交響楽団は中国のプロの交響楽団の一つで、楽団は三管編成となっており、各国の名曲を演奏することができ、現在の芸術総監督は中国著名の指揮家張国勇氏です。近年、青島交響楽団は既に中国国内の 20 余りの省・市におけるツアーコンサートを多数回にわたって開催しており、他にもロシア、韓国、アメリカ、フランス、イタリアとスロベニア等の国におけるツアーコンサートや公演を実施しています。私どもは 2016 年に青島交響楽団を新潟と清州に派遣し、それぞれ一回の公演を実施させることで、日韓との交流を図りたいと初歩的に計画しています。

3 番目の計画は青島市民五王芸能団を日韓に派遣して交流公演をさせることです。私が先程の意見交換の中でも述べたのですが、青島市民五王芸能団メンバーは第 1 回青島市五王芸事大会において「歌王」、「舞王」、「劇王」、「琴王」と「ショー王」の桂冠を得た人と各区・市における予選の優勝者から構成されています。この芸能団は今年初め頃成立以来、100 余りの各種の文化イベントに参加しており、青島市民の文化使者となっています。私どもは 2016 年にこの芸能団を新潟と清州に派遣し、それぞれ一回の公演を実施させることで、3 か国間の市民交流をよりよく推進したいと初歩的に計画しています。

4 番目の計画ですが、私どもが日韓の達人を青島五王芸事大会に招聘することです。私どもは 2016 年も引き続き市民による五王大会を開催し、大会の企画書が決まったら新潟と清州に送付します。このイベントを東アジア文化都市市民芸事大会に改名してもいいと存じます。そして、私どもはこの大会を国際型の大会にし、2014 年と 2016 年の東アジア文化都市の当選都市も招聘することで、歴代東アジア文化都市の民間文化交流ブランドイベントとして参加者範囲を広げたいと存じます。

5 番目の計画は日韓の方々を「青島国際音楽巨匠クラス」に招聘することです。「青島国際音楽巨匠クラス」は青島市で年に一回開催される重要な文化イベントと国際文化交流舞台であり、2006 年から現在まで 10 回開催されており、招聘された国内外の音楽巨匠は累計

100 人余りとなり、参加受講者は数千人に上っており、現在中国国内において知名度、講師と受講者のレベルと参加人数のどちらもトップレベルの音楽サマーキャンプの一つです。2015 年の「青島国際音楽巨匠クラス」は既に日韓の教授を招聘しましたが、2016 年に日韓音楽巨匠と受講者への招聘を更に強めることで、3 か国間の音楽藝術交流を促進しようとしています。

6 番目の計画は「3 か国青少年民族音楽サマーキャンプ」を開催することです。私は先程皆様が述べられた観点に大賛成です。それは文化イベントを必ず青少年の心を掴められるものにすることです。そうするとイベントがもっと生命力のあるものになれるのです。私たちは積極的に 3 か国青少年による持続的交流を推進すべきです。何故なら、これは東アジア文化を継承・発信し、文化の相互理解・協力を促進する「未来プロジェクト」ですから。よって、私どもは以下の通りに提案します。それは 3 か国の青少年は毎年一つのテーマに巡って交流イベントを行うべきで、2016 年に「3 か国青少年民族音楽サマーキャンプ」を開催し、3 か国の青少年代表を招待し、お互いの民族音楽を体験・学習・交流させることです。

上述の計画は私どもの初歩的なプランであり、これらの計画を確実に実施するには様々な支持特に新潟と清州からの大きなご支援が不可欠なため、私たちは力を合わせて努力しなければなりません。以上です。ありがとうございました！

太下：

恵部長からとても具体的な 6 つの計画のご紹介をいただきました。篠田市長の提案を踏まえるような形で、青少年のサマーキャンプという提案もいただきました。青島市の市民の達人に新潟からも挑戦する。今日ご参加の方も我こそはという方がいれば、是非達人に挑戦していただきたいと思います。色々な形で具体的な交流が続いて行けば良いなと、今のお話を聞いて思いました。

それでは清州市の尹副市長からも今後の交流についてご意見をいただきたいと思います。

清州市・尹 副市長:

清州市が展開していこうとしている今後の交流の方向について申し上げたいと思います。

先ほどお二方の方からもお話がありましたが、東アジア文化都市の行事が今年で終わるのではなく、今後も更に発展していかなければならない。それには大賛成いたします。特に今後の交流において文化交流だけではなく、青少年の交流。子供を中心とした交流を拡大するということに私も賛同いたします。その為に清州市も努力していきたいと思います。

この東アジア文化都市の価値をより高めていくためには、これまでは官・政府中心の展開で参加都市の市が中心となっていましたが、今後は市民・草の根レベルでの交流がより拡大すべきだと思います。清州には芸術総合連合会や市民中心の関係団体が数多くあります。青島・新潟にも市民が中心となっている芸術団体があろうかと思います。このような市民団体が中心となった文化交流の拡大を期待しております。その為に私どもも努力してまいりたいと思います。

先ほどの成果報告でもお話した“箸フェスティバル”を開催しています。箸は東アジアの生活文化で共通の要素だと考えています。箸フェスティバルをより発展させ、青島市・新潟市も参加し、箸が持つ価値・文化商品としての価値を土台とした公演コンテンツを開発し一つのイベントとして盛り上げていきたいと考えております。また、東アジア共通の生活文化である箸を、ユネスコ世界文化遺産として登録実現のためにも、力を合わせて努力していきたいと思います。

3番目は、清州は世界最古の金属活字本「直指」(チッチ)を作り出した有名な街になります。来年 9 月には“チッチ・コリア・フェスティバル”を開催する予定ですが、このイベントにも新潟市・青島市からコンテンツをご提供いただき、ご参加いただければと考えております。

今後も新潟市・青島市・清州市 3 つの市が共に東アジア文化都市をより盛り上げるために、力を合わせ市民の協力を得て、より花咲かせるような時代を切り開いていきたいと考えております。

太下：

尹 副市長ありがとうございました。

今までは政府中心の交流であったが、これからは市民・草の根レベルの交流が大事なんだというご提案がありました。私も大賛成です。

残念ながら日中韓 3 か国の国と国との政治的な関係は、現時点ではあまり良いものではありません。そういう時代だからこそ都市と都市、市民と市民の文化の交流が非常に大事な時代だと思います。

さて、そういう中で 3 か国日中韓東アジア文化都市がこれからどういうネットワークを築いて行けば良いのか。この点についてお三方からコメントをいただきたいと思います。

篠田市長：

今回、東アジア文化都市事業を 1 年やらせていただきましたが、文化交流の力には大きなものがあることを実感いたしました。しかし一方では、東アジアと名前が付いていますが、まだ日中韓 3 か国だけの文化事業となっている。このエリアについてどう考えていくか、ということも国の方と我々も意見交換させていただきたいと思っています。東アジアといった場合東アジアは勿論、東南アジア ASEAN の国々にも多様な文化がある。ASEAN は共同体で動いていますが、その中で文化事業の可能性があるのかどうかということを国を通じて探っていただきたい。本当の東アジア文化都市のネットワークが東アジア全体におよべば、相互理解の輪はさらに広がることになると思います。

そして今回、日仏都市文化対話に中・韓からも加わっていただいて、非常に面白い対話が出来たと思っています。これを今後フランスが事務局となってフランスの都市で展開する場合に、EU の諸国と我々が結びつくことができないか。日仏中韓が EU と都市文化対話という形まで発展できるかどうか。これも追及してゆくにふさわしいテーマかと思います。

更に新潟市は、食文化を重視していますが、ユネスコの創造都市ネットワークのガストロノミー分野で登録認定をされている中・韓の都市から参加いただいた、食文化シンポジウムでは、それぞれの食をお互いが確認し合い大変に盛り上がりました。今年度新潟市はユネスコ創造文化都市ネットワーク・ガストロノミー分野での認定に向けて申請をおこなっておりますが、その方向が確認できればユネスコ創造都市ネットワークと東アジア文化都市ネットワークが行けば面白い展開になると思います。

より重層的なネットワークを作り上げる。その基本は、昨年の東アジア文化都市に選定された 3 都市、プラス今年の 3 都市の 6 都市がネットワークを作っていき、それを来年の 3 都市にまた結び付けていくことが現実的であり具体的だと考えております。是非、文化のネットワークを多彩に作り上げたいと思っています。

太下：

篠田市長ありがとうございました。

実はこの東アジア文化都市という事業は、ヨーロッパで開催されている欧州文化首都という事業をモデルに構想されています。今お話が合ったように、東アジアの 3 か国・3 都市の交流が欧州文化首都との交流が出来ないか。また ASEAN にも独自に ASEAN 文化都市という制度があります。こちらは地味にやっていますが、こちらともネットワーク化が出来ないだろうか、こういう展開もこれから考えていく必要があるかと思いました。

続きまして、青島市・恵部長からコメントをいただきます。

青島市・恵 部長：

「如何に都市間における交流ネットワークを構築するか」は非常に重要な問題で、我々東アジア文化都市がよりよく発展・強大になれるかどうかにも関わってきます。先程新潟市長のこの課題についてのご意見を伺って大変嬉しく存じています。何故なら、私どもも早めに「東アジア文化都市ネットワーク」を構築すべきだと考えているからです。中国には「英雄の考えは大体同じ」という諺があります。正にその通りですね。先程、司会者が仰った「如何にこのネットワークを細かくするか」については、私どもは今年の初め頃に「東アジア文化都市ネットワーク」を構築すべきだと提案しました。私どもの目標は 3 か国の政府が支持している、歴代東アジア文化都市が都市連合を構築することで、東アジア

文化都市というブランドを共に守って発展させていくことです。これが東アジア文化都市間交流ネットワークの一番の効果的な実施の仕方ではないかと存じます。

近頃、3 か国首脳が調印した「北東アジアの平和と協力のための共同宣言」にもはっきりと「都市間の更なる国際的な交流を円滑化するための東アジア文化都市ネットワークの設立を支持した」と載せられていますが、私たちは一刻も早く行動し、共同で都市間の交流ネットワークを構築すべきだと存じます。私どもの基本的な考えは以下の通りです。連盟事務局を設立し、ネットワークメンバー都市への事務連絡や交流協力、アーカイブの管理を担当させます。また、各都市にはネットワークとの窓口常設機構を設立し、或いは各市政府の文化管理部門に同じような機能を持たせ、担当者や連絡先をはっきりし、その担当者に都市間の日常連絡を担当させます。毎年一つの都市がネットワークの年会を開催し、形式はシンポジウム等で何でもよく、各都市に文化発展の変化を各都市が紹介し合うなど。ネットワークのホームページを立ち上げ、各東アジア文化都市の最新情報を随時更新して発信していきます。最後に、他の地域の文化都市と交流し、共同で第 3 国における東アジア文化都市の文化交流展示活動を行います。

2015 年東アジア文化都市として新潟、青島と清州の関係がより深まりました。毎年私たちが一定の分野と数の文化活動を 3 都市間の交流事業にし、各都市の美術館、博物館、図書館、学校等の文化機構をなるべく活用することで、活動主体と活動内容をより豊富にすべきだと私どもが提案したいです。そして、条件が揃ったら、私たちは東アジア文化都市ネットワークの元でヨーロッパ・アメリカ・ASEAN 等の地域の文化都市との交流・協力をより強めてもよいと存じます。先程、司会者も仰いましたが、世界文化都市ネットワークの構築によって新たな多方面文化交流プラットフォームを築き、文化を先達に全面的に文化、観光、科学教育、地方協力等の友好的な往来を推進していくべきです。私たちは力を合わせれば、各都市の文化がきっと「東アジア文化都市」という称号によって更に輝くと確信しています。ありがとうございました！

太下：

恵部長ありがとうございました。

東アジア文化都市連盟という、より踏み込んだ具体的なご提案をいただきました。ぜひ今の提案を日本の中でも議論が出来ればと思います。

それでは、清州市の尹 副市長からも今後のネットワークのあり方について、コメントをいただければと思います。

清州市・尹 副市長：

2014 年から始まった東アジア文化都市は、来年の開催都市も合わせると 9 都市となります。それぞれの年度で選定された都市同士はネットワークが構築され、交流が活発におこなわれていますが、年度の違う都市間ではあまり連携していないと思います。東アジア文化都市同士の協議体のようなものが必要ではないかと思います。連盟であれ、どんな形態であれ、文化都市同士を繋げてくれる何がしかの形が必要だと思います。清州市も韓国政府と協議をしているところです。来年は 9 都市になりますので協議体の事務局が必要になると思います。今年、青島で開かれる文化大臣会合の席でこの協議体の具体的な案が出るよう私たちの意見を伝えていただきたいと思います。

文化都市事業が活発に展開されるためには、政府レベルの政策的な支援プラス、予算も必要と思います。それが潤滑油の役割をすると思っています。政策的支援と予算的支援も政府にお願いしたいと思います。

新潟・青島・清州の中にも、それぞれこの事業を継続的に推進するために、各都市に担当窓口と専門チームが必要だと思っています。そのチーム同士で連携をすればよりスムーズに行われると思います。

司会の方から、東アジア文化都市事業は欧州文化都市をモデルに作られたとのお話がありました。東アジア文化都市をより活性化させるために、フランスとも連携・交流し、その中でもっと発展させていくという方法も考えてみたいと思います。

太下：

尹 副市長ありがとうございました。

９つの東アジア文化都市を繋ぐ何らかの形が必要であり、事務局的組織が必要とのさらに踏み込んだご提案をいただきました。文化庁の有松次長もしっかりとテイクノートしていらっしゃいましたので、今回のシンポジウムを元に新たな展開がなされるのではないかと思います。

非常に具体的な提案も出て、もっと議論してまいりたいところではありますが、当初の予定時間をすでに過ぎております。簡単なまとめをして終わりたいと思います。

東アジア文化都市のモデルとなった欧州文化首都は 1985 年に始まり今年で 30 年の節目になります。この欧州文化首都がなぜここまで続いてきたのか、この理由はいろいろあげることができると思います。逆に何故途切れなかったかというふうに考えてみると、これは当たり前ですが、欧州で大きな紛争がなくずっと平和であり続けたからです。翻ってこ

の東アジア文化都市の未来を考えた時、10 年 20 年後、この東アジア文化都市がさらに発展継続して開催されている未来の東アジアは、今以上に平和であると思います。そうなるとこの東アジア文化都市という事業が、東アジアの平和にも大きく貢献したのだということになると私は考えています。そのことはノーベル平和賞にも値する事業だと考えています。ノーベル平和賞は確実な実績だけでなく、未来への希望でも受賞理由になります。2009 年オバマ大統領の「核なき世界」という提言もその受賞理由でした。今この東アジア文化都市に取り組んだ 3 都市はもしかしたら、ノーベル平和賞に値する事業の一端を担っているんだという意気込みで、ぜひ東アジアの文化交流を続けていただければと思います。

　これでシンポジウムを終わります。ご清聴ありがとうございました。